



われら 緑の応援団



KES エコロジカル
ネットワークプロジェクト

～生物多様性の 問題に取り組む～



地球温暖化と並ぶ大きな環境

問題である生物多様性(※1)の危機に取り組むため、KES環境機構など関係団体が協力し、「京都市生物多様性プラン」(※2)の実現に向けたプロジェクト「KESエコロジカルネットワーク」をこの夏にスタートさせました。緑化協会も、和の花保全の取り組みを進めるため、専門家の派遣や仲介、植物の苗の提供等の協力を行っています。

長い歴史を持つ京都では、生物多様性の恵み(生態系サービス)を得て、彩り豊かな暮らしや文化が発展してきました。しかし、祇園祭の粽や和菓子の包みに使われるチマキザサのよう



葵祭の斎王代と女人列。祭列のすべての人の衣冠をフタバアオイで飾る。(写真提供:上賀茂神社)

に、調達しにくい生物種が近年多くなってきました。こうした課題に対応するため、京都市では、京都ならではの自然環境や伝統文化を後世に受け継いでいくため、目指すべき生物多様性保全の方向性を示す「京都市生物多様性プラン」を2014年3月に策定しました。

これを受けネットワークでは、身近に取り組める活動として、希少になりつつある在来の草花「和の花」(フタバアオイとフジバカマ)を育て、生物多様性についての理解を深めることから始めました。

対象事業者を一部エリアに限って参加希望を募り、7月4日の京都工業会館(右京区)での事前説明会では、①都市の生物多様性確保の重要性、②自生地以外の場所で希少植物を栽培する際の注意点などの講義を行いました。また、葵祭に欠かせないフタバアオイの保全を行うNPO法人「葵プロジェクト」(上賀茂神社内)の村松晃男事務局長が、活動が人と自然の関係を

見つめ直す機会となつていていることなどの意義を説明しました。

説明会を受け、18の事業所が2種の栽培保全に取り組む意思を表明、同日11日、栽培講習(同所)を受けました。中には植物に慣れていない参加者もいましたが、講習での表情は一樣に真剣で、関心の強さを示しました。これらの鉢は各社に持ち帰り、育てながら社内広報などで生物多様性への理解の普及を図ります。

来年度、ネットワークは和の花の種数を増やしたり、建物敷地の緑化を推奨していきます。将来的には、巨大なビルながら緑化に取り組む京都駅ビルと、ビオトープ「いのちの森」や京

都水族館がある梅小路公園を結ぶエリアを中心として、緑化施設や緑地を結び、さらに市内全域に広げていくという構想です。KES環境機構の津村昭夫専務理事は、「希少種の栽培に限らず、企業独自の緑化を進めていただくことで、実質的な緑のネットワークにつなげたい」と話しています。



KES エコロジカル
ネットワーク構成団体



◆京のアジェンダ21フォーラム(事務局) ◆KES環境機構 ◆京都市都市緑化協会 ◆京都駅ビル開発 ◆京都市

◆KESとは

京都環境マネジメントシステムスタンダード(Kyoto Environmental Management System Standard)のもと、気候変動枠組条約COP3をきっかけに、京都市等が呼び掛け設立された「京のアジェンダ21フォーラム」から発足しました。中小企業でも環境改善に取り組みやすく、現在、京都市内で約1250社、全国では約4,400社が登録。NPO法人のKES環境機構(右京区)が審査登録団体。KES環境機構(連絡先 075-321-4767) <http://www.keskyoto.org/index.html>

※1 生物多様性
ある区域における全ての生物の間の変異性。①生態系、②種間、③種内(遺伝子)の3つのレベルの多様性があるとされます。

※2 京都市生物多様性プラン(2014年3月)

京都の生物多様性は、木材や食料の供給、水害の発生を予防する等、人々の安全で豊かな暮らしを支えるとともに、食、祭祀、庭園、茶道、生け花などの様々な伝統文化を育んできました。しかし、里山の荒廃やチマキザサなど固有生物の減少等、自然環境の保全や伝統文化の継承を揺るがすような生物多様性の課題が発生する中、体系的・総合的な取組の推進が求められていました。そのため、「京都の豊かな文化が世代を超えて継承されるように、全ての人が生物多様性の恵みを生活の一部として再認識し、地域資源を生かした持続的な暮らしや経済活動が行われる社会」を目指し京都市生物多様性プランが策定されました。

(問合せ)京都市環境管理課 075-22213951

京都市 生物多様性 プラン

生物多様性保全の取組を進めています!

環境にいいことしていますか?

DO YOU KYOTO?